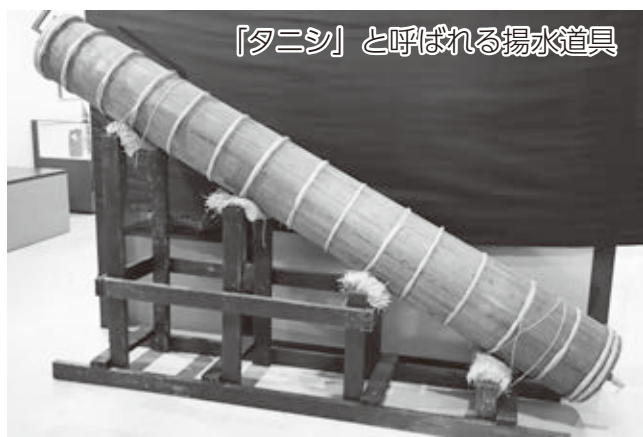


# 高島のくらしと民具

## 内湖で使われた揚水道具

乙女ヶ池に面する打下区では、内湖から水を揚げるために、「タニシ」または「サザエ」と呼ばれる木製の道具が用いられてきました。これは一般的には竜尾車と呼ばれる民具で、長さ約4m、直径約35cmの桶状の筒内側が、らせん状になったものです。これを回して低い水面から、より高い耕地へ



「タニシ」と呼ばれる揚水道具

と水を揚げるポンプとして利用されてきました。打下区では、その形態から「タニシ」と呼ばれることが多かったと伝わり、昭和30年代までは、乙女ヶ池の沿岸の複数の家で使われていました。

## 起源と伝来

竜尾車の技術は、西洋の「アルキメデスポンプ」を起源とし、室町時代末期に日本へ伝わったとされています。農業用の道具としては、近畿の一部で使用されただけで、全国的に普及することはありませんでした。その竜尾車の初期導入地の一つが高島郡（現高島市）で、市内に複数存在した内湖の沿岸で用いられていたといわれています。

滋賀県内では、堅田で製造が始まり、江戸時代末頃に、高島郡マキノ町の桶屋がその技術を習得し、海津で製作が始められたといわれています。

高島民具クラブが昭和50年代

に打下区で行った聞き取りでは、「タニシ」を実際に使ったことのある、明治35年生まれの人が回答をしています。それによると「タニシ」は他の揚水道具よりも早く水揚げができる便利な道具で、約3000回まわすと一反（約1000m）の水田に水が揚がりました。また、これを回転させるのは学校帰りの子どもの仕事だったということでした。

## その他の揚水道具

打下区では、「タニシ」の他に「ジユウゴシ」または「竜骨車」と呼ばれる揚水道具も使われていました。これは、近江八幡で多く使われていたことから、恐らく近江八幡で購入して、使われていたものと考えられています。

こうした、今では見ることもない高島の昔のくらしを伝える貴重な民具を紹介する特別展を開催します。皆さん、ぜひご来場ください。

関文化財課 ☎(25) 855509

## ●秋季特別展「高島のくらしと民具」

会場 | 藤樹の里文化芸術会館 展示室1  
 期間 | 10月31日(木) ~ 11月10日(日)  
 ※11月5日(火)は休館  
 時間 | 9時~16時30分(最終日は15時30分まで)

### ◆特別展関連体験講座

はた織り体験&スカリ(紐編み運搬具)作り

日時 | 11月2日(土) 13時30分~16時  
 講師 | 辻川 智代さん(琵琶湖博物館特別研究員)  
 参加費 | 200円(材料費)



スカリ

## 編集感

10月は市内でたくさんのイベントが開催されます。なかでも、ピックランドを主会場に開催される「びわ湖高島栗マラソン」は、撮り応え十分なスポーツイベントです！広角レンズで豊かな自然の中を疾走するランナーを撮るもよし、望遠レンズで快走するランナーたちの表情を撮るもよしと無限にイメージが膨らみます！

当日「高島市」の腕章をしたカメラ職員を見かけたら、全力でお気に入りのポーズをお願いしますね♪(YO)



広報たかしま

令和元年

10

月号 No.237

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課  
 〒501-8501 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25) 8000(代)  
<http://www.city.takashima.lg.jp>  
 ✉t:info@city.takashima.lg.jp